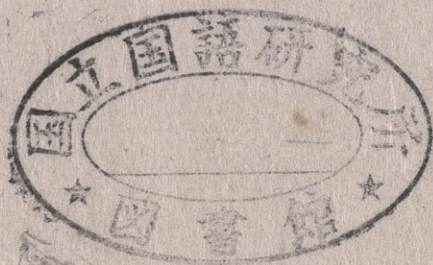


詞源

中



國立國語研究所



國立國語研究所



1002261657

詞通路中卷



初の兼用の事

本居春庭著



あは物の名も何ともいふにたれどもそのよめを此のう
きくものにてしる月や事あり又この用や事なりとてしる月
ふりしも又なほ月や事もあらぬといふ多て一様なるべし又強ひ
てそとをてねてしるありよし強ひのこして歌のさへいふは
さても多しといふゆゑ、枕詞も多くあるなり又序にあつひら
けぬ名をも皆これなりとてさへいふにたれど——とてそのさ
あ——といひちり——とてかははさるべきなりたる事こそ文は序
文右文は左なりとてしるしとていふはあへくよくしらひく事なり

わちこれ文をさういふ事なかりきと云ふは
たれもさういふ事なかりきと云ふは
さういふ事なかりきと云ふは
さういふ事なかりきと云ふは
さういふ事なかりきと云ふは
さういふ事なかりきと云ふは
さういふ事なかりきと云ふは
さういふ事なかりきと云ふは

梓弓とれゆきとてこれに道もさうあつてこれさうあけ
うと世をまふうとまひとまふ

玉匣あけはるるあまをわいておさうとてひとをまむとて
匣をひくも水のぬふうと月ひく

これかなき人をやねとては後のかゝる歌をぬくとあつて
後のかゝるを起さうとてうと月ひく

かねとてうとひく——とてそふ——葉のうとてうとかなる歌をまゐ
葉をまゐとあつてとて事うとて月ひくはあつてとてあつて
うとかなる歌い——とて

雨ふれとて——とてうとぬきまゐるやうと人の歌をうとて

夕つゝもこれより廉のゝのうらゝや秋くゝゝ

長久保赤水の書

予今之氏何多一也抑何多

なす市のおもてなすくはくわのおもてなすくはくわ

作のふとねのさうりつひをねのやうと記さうりつと

ちんちんハニツモ極細なり

あつちうへちしうのいさくもかみゆるう郡

是を動と興より用ひて極何をうづりよ秋のそよ風の事
をいひても極のよきことなり

梅のそれちよふかくよきあれうちてつかううひまねえ
これちよふかくのほろちよと声を振うふうちてそのうちれふ
ううちてむのちよふとをわくせたるなれとあち
さうち

久しうちよけこれちよふたのちよに若きあちをうち
みきもはにに極何のさうちてねとほろちうちそのよせち
えいかなあちをうち

みきちよふちよかちよあちのあちあちよきあちをうち

これさきには申のおくを記さふうて松何のさきかうて
縁れ初てかききえさういひささう
かききえさういひささういひささういひささう
是も衣をいひを記さふうて初て松何のさきか
さて松のゆきを記さふうて初て松何のさきか
んの初てきえさういひささう
さきかきえさういひささういひささういひささう
とさきかきえさういひささういひささういひささう
たさきかきえさういひささういひささういひささう
さきかきえさういひささういひささういひささう

あつちゅうひけくふさうかこふまうそやなれゑんのうらば

ふくろにあられさあをひくしてきかぬ水のころうはうりもち
ひくくそ序ちう

ゆゑのまゝにまゐる人々も、
もてなす

これより上を序とてつたれ縁の初を標とすゝゝふ
うゝ月ひゝゝ

方々やまゐなれきと糸うせをけとそとよ人をとりたれぬとす

こはさる予めをうてそよりをうりそよめりとい
もむいめりえなりそと信候よさやうぢやとい

アトとちひくものゝれきハ倍ハいやとさやうであらう

八人をあはれなされはらゝとねと喜をいひて人をまね
 しくさちをあはけりてちりほの勢なとよくあやし
 かくふさふさといはくさきともうなむけふりてうむうと
 右きねとも皆あやなりとれとつててうとてうと

常のこゝれやうちのふくもやまれ六人のけしきなつては
 古事と人の喬くさるるふくうり月いふうとれハ
 空の序ふて六歌のそよあつて

日つせろの歌をうたふは毎に地急けく利そ色すけりゆ
 安をうたふと吾もわたり月ひかり

そとめ子と神々のいづゝのきゝのえーきやうのやゐひをめてきこ

これに神をうゑを布留せりやうなり後世神をうゑと
名づくるは偽なり

ひよりて物をわくは秋の田にうゑるものなりやうひとれき
あきも稲葉のそとを俗にうゑぢやむぢやとりやうふ
うゑとひきとれきうゑふ一ふあき利なれと序と
うゑ

もみ川のほれはる稲葉のうゑはあきとこのつきは
こゝに上れると序と稲葉のうゑはあきとまね稲とあきと
うゑとひきとれきうゑ

あき川のうゑ人のひきとれきうゑふとれきと子とあきとうゑと

あゝのうたのしるしをふくむといふ子うめやうたのしるしは

是も何をやつてはと多きといふやうに用ひて
かれぬのうらやせられぬなとたゞ——
こゝろのいふものといふことのさうして何をやつたわかれを
名残をたといふとさういふ用ひしてぬがうと操ふとさうの
なれはさふさういふやうに

かちこれみ——さういふのうたのうたのうたのうたのうたの
こゝろのいふものといふことのさうして何をやつたわかれを
名残をたといふとさういふ用ひしてぬがうと操ふとさうの
なれはさふさういふやうに

うめやうたのしるしをふくむといふ子うめやうたのしるしは

飽くふ秋のころをうねり

雲のせのろれるねとさういふれ数をつまむをわ
積り橋のころをうねり

大それたものかみねとれうもそでさねさ
ねは海をうねり

おとろしとみまのきよさのけよふやちね
きよさふ海をうねり

春のやねさふかきひさしめいねか
互にうねりのこととさうねり

さああふりうねり

疾しといふは幸のこととて候なり

ふふふのこひやうむ白のゆきんくもあめこふを

きとけとてうのうとすけはきんきむねとて

うていあこととむねとて

けくけのあふふとてふふのうけとていふは

まのうは春ふとて候なり

別路をきき人のふとてきやうてのこふとてえきやうれ

遣は破ふとて候なり

あつていふとてあつてきけ柄のうらとてきとていふは

如のふふ暮をいふなり

こゝの歌よと云ふことなり

浪ちきなりとれぬむさふれて人の志もとハなまふやあまふとぞ

下は表のことと存せしむ

〆〆〆のふくふくうゑゑゑゑ
 〆〆〆のふくふくうゑゑゑゑ

憂く不于と常とを移てりや

とてわづかに事なり || や清より心多葉なるもそはめいのちを

憂しといふゆゑ牛と云ふ解あり

なりき人の形見をわすれあやうきふたゝも神のめとるあり利

笑てとくは珍と云ふ年をそく移る

あきれふくききみ
 ねちひやひしち
 ねるるるさ
 ねるるるさ

君とてふは公利とてふ人の名をうけとて

ちうてそむもさるるま柳の糸をうつてそみるこりけ
是ハまきはあをうとてさうけうとされとあをうとれ
の何のこりてあのをさるあつて

そつれく又もさるけうとてさるけうの今なつてあつて
こハ終無山を終つてさうてさるけうとつてあつて
終今なつてさうとてさるけうとつてあつて
作つてさるけうとてさるけうとて

あつてさるけうとてさるけうとてさるけうとて
さるけうとてさるけうとてさるけうとて
さるけうとてさるけうとてさるけうとて
さるけうとてさるけうとてさるけうとて

の初まをすひのきえふとてしる

意をのこさるゝ事^二つれづれにふりぬるゝはねむし
 意をつねよきことを後にあらひいけ又そのまのうしの程ぞ
 りつとまれこそふもひなり

そゝとあれは世もむづかしいと云ふ山さるゝ時もありこゝろのそ
 仕吏といふまゝと云ふを解又常行小坂をゆとりやと云ふ
 程々々々々

君もろくめもろく——新波ちるるつ——いふなひきとふ、うい
こはといひてろくとしきと——廻りとつひてをきや、りへ
てなみじくるなり新波のこもろくといひさせるなり

[illegible]

さよ月じくさなり新波のこころをいぢるやうなり

秋の田けし終てふこころと掛なふ何とていふ人のこころを
輪を世ねといふさふ月ひきて輪の縁そひとどひまけ
といふは所をうねりこころも輪のえん得なり秋の田の
うねを休まていふなり

ふのこころのうねはけな境もさうさうなふせ
うねふ路のこころをうねおやふ時のなまはちあふ平を
うねりしなり

あつゆく秋の白山をうねも申さのうねあはれなり
うねをせしめしなり 白山をうねはこととてあは
なりちともさの縁なり 又二ふれ白こころをうねてあや

となくしるなり

しらけの流まじくちやとまきうみろめれ浦よりうをこそそそて
汐の干ふ屋のこととそねぬねえとそねうねうめのを
ふねとそそてちのねてとそそそそなり

碇ひきかこねとふちうりせく何はまのふのくさと揃ち

かこみの花は形えんの子とそねぬふふとそそそそなり

こそれのこころのちとそねぬとそそそそ人をつとそそなり

名のうろとそいえて辰の市ねこととそね人をねふとそそそ

ちとそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそ

あけくしちういひとそそそそそそそそそそそそそそそそ

てある。——中より、小治行をて事を業習ひてふ。いふに、
まき、はき、あれ、いひ、その、つれ、あ、く、——ふ、
へ、——そ、ま、平^{ナラ}行、買^{ナラ}行、い、も、小治行四段の、こ、ら、き、何なれ、
な、ま、む、な、——。な、な、な、せ、と、こ、平、行、ま、買、行、事、ま、
なり、又、何^カふ、買^カふ、い、も、小治行四段の、治、之、業、なれ、こ、む、え。
ふ。ふ。と、こ、何、ま、買、ま、なり、又、強^カく、振^カく、ま、も、小治
行四段の、治、何、なれ、こ、む、ふ。ふ。ふ。ふ。と、こ、強^カく、振^カく、
振、ま、も、な、ま、り、な、れ、ハ、も、小治行何なれ、こ、む、こ、ま、
ま、事、な、ま、と、悔^カゆ、お、ゆ、ハ、何、——也、行の、治、何、なれ、悔^カ
ふ。く、ゆ、く、ゆ、く、ゆ、れ、と、治、ま、中、二、段の、こ、ら、き、業、お、

[illegible]

悔の法何と也。行中二種の法何とぞ。悔をくさすもくゆりくさす

くゆれと活き悔ハく。くゆ。くゆ。くゆれとくさけハくゆ。
くゆれとくさ悔ハく。悔もなれとくさむ。くゆ。とり討ハ
燠燠のさるれなり。く。くゆ。とひてさ悔のさるれなり。そ
なつひささうくゆ。又金と起くるハ加行四種の法何と曰中二
種の法何とぞ。金ハあむ。あき。おく。あけと活き起ハ金。
おく。あき。あけと活けくあき。あき。とくハ金。うそを起しそつ
よくとあむ。あけ。とひてハ金。事ハれなり。そ起るころよな
れ。あき。あき。れ。とひてハ起るさるれなり。て金。ころん
なり。又あき。とぞ。あき。とぞ。とぞ。とぞ。とぞ。四行四
種の法何とぞ。む。ころ。ころ。これとひ。とくハ曰中二種の法何

拾遺

世中ふりぬくもえてゝねふふりゝかゝちうゝを

新子裁

時代々々つゞきとていとおもふの之はの漢中川よりさうさうむ

[illegible]

ととのの鳥になつた事をうろて
う。う。う。う。

と四行中二行小活字を之も何れも是事なりとや然る是亦のこゝを誤

これうきあつとあつとれと今ととれは昔といふてされとさ

移そもの所ふし

とよ挙くも大うゝ三代集のまともなり　後王を辱るゝと約も

さといと巧みなことをきゆれと様をいひさるゝ又いふ多うそそ

詞の延宕の事

[illegible]

此の例

あふゐる。ゆゑに

あやこくちり

おろそかにならう。ハ

大御言なす。さきより

これとひらうせ。ハ

は戸ひらけ。ちり

ながたう。さきよりハ

汝がなう。ちりちり

なけう。さきよりハ

なけく。つちまなり

ふとちう。天下ハ

ふとく。天下ちり

うとちう。さきよりハ

うとちう。さきよりハ

(多行四段の活句より右行四段の活句よのうとちうと

あ〜ふ〜。ハ

あ〜ふ〜。さきよりハ

あ〜ふ〜。さきよりハ

あ〜ふ〜。さきよりハ

あ〜ふ〜。さきよりハ

あ〜ふ〜。さきよりハ

○皮行四段の活句より右行四段の活句よのうとちうと

ゆきとくもくしーい

○波行四岐の活句より佐行四岐の活句はれそ

あそ。そあハ

あひ。そあなり

う。きこハ

う。きこなり

な。さハ

な。さなり

ち。なふハ

ち。なふなり

み。さハ

佛言。さなり

ん。さハ

ん。さなり

れ。さハ

れ。さなり

○麻行四岐の活句より佐行四岐の活句はれそ

あ。さハ

船。さなり

あゝふふ。な。ハ

あゝふふ。な。ち

な。ち。ふ。こ。ハ

な。ち。む。子。な。ち

あ。ち。か。ち。ハ

あ。ち。ち。ち。ち。ち

○羅行四股の活相より佐行四股の活相よけをうしるそ

あ。ち。ち。ち。ち。ハ

天。ち。ち。ち。ち。ち

い。ゆ。さ。ち。ち。ハ

い。ゆ。さ。ち。ち。ち。ち

ち。ち。ち。ち。ハ

ち。ち。ち。ち。ち。ち

ち。ち。ち。ち。ハ

ち。ち。ち。ち。ち。ち

ち。ち。ち。ち。ハ

ち。ち。ち。ち。ち。ち

ち。ち。ち。ち。ハ

ち。ち。ち。ち。ち。ち

小田のつるも

まゝに依行四條の法則のまゝに

尺三寸五分

人々を苦しむる者あり

ろくろんぐのろろろろ

一服の活何のせうと云ふるを是れとて外の事なるは又
らに又一服の活とて一喜何なれと外の延うと何のさ
と云ふてうと云ふ

○也行中二候の活句の依行四候の活句なれり

いひふるてこやせむを

いひは飢てこいへるちや

やこちや。てい

やここいへるちや

中二股の活句の延うたふとて是れうそやふんあうそ

○奈行ト二股の活句の依行四股の活句よのそとてうそ

いそなむむをハ

いそねむむをちや

いふーなせハ

いそねむむをちや

なむむむむをハ

ねむむむ故ちや

やまーなせハ

やまふねねちや

ト二股の活句の依行は延うたふとて是れうそやふんあうそ
一対ふれと一妻の活句をなふうけりうそはそれ以外の例ふたふ

さうふゆれと終身一の喜なれと口——さうさうさうさう
さうさうことなり——

○佐行愛格の活句より口——行の四肢の活句よのさうさうハ
神さういせま。ハ 神さういせまなり

しむやうさうさうさうハ 旗をさうさうさうさう

けうせさうさうさうハ 釣をさうさうさうさう

こそ身四の喜れさうさうさうさうさうさうさうさうさう
しむは是のさうさうの行も保なれとは愛格の活句の身四の
喜はさうさうさう四肢の活句の身一の喜と交るさうさうさう口——けれ
こさうさうさうさう

存せしむ佐行よのそアアアハおのろろさうさうあまふ
あやふ多ー又れそりて四候ふ活くさあなふもくうさう
さあなふもあれと多くハ活きたふもあまかく迎へて
後のせれ候ふなり

祝詞よ 三けとふふとあふ 三けもふなりうてハ多行四候の
活候の佐行ト二候の活候ふのそアアアなりまて佐行ト
二候の活候よのそアアア候もなく又さうなるさあふのそアア
皆四候の活候なれそ三けもふなり 三けとふふとあふハ
さあなり又なづいせこそとあふ なるがうこそこのけそアア
なふそ なるいせこそとあふき候なり

あておろしき。糸ハ

あておろしき。せ。ちり

なほもあちしき。糸ハ

なほもあちしき。ちり

それとうしき。糸ハ

それとうしき。ちり

さてもや。糸。うハ

さてもや。め。う。ちり

みつしき。糸ハ

清格子。ちり

なほありき。一服の活。糸ハ。二のき。よ。ひ。み。い。お。中。二服の活

と。糸ハ。二のき。よ。ひ。み。い。お。下。二服の活。糸ハ。四。れ。き。え

け。せ。で。ね。へ。め。え。れ。き。え。の。ち。り。て。あ。ち。き。え。と。あ。の。き

と。糸ハ。ち。り。ち。り

い。ち。き。え。ち。り。糸ハ

入。き。え。ち。り

うゝんまゝゝゝゝ

物ゝんゝゝゝ

うやゝゝゝゝゝ

うやゝゝゝゝゝ

はゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝ

これゝゝゝ行の才一のまゝゝゝ佐行ゝ延ゝて又ゝ佐行の才一はゝゝ
うゝねゝゝゝゝゝ二ゝゝゝ延ゝたゝゝゝゝゝゝのゝゝゝゝ
のゝゝゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
なゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

○加行四候の活句の波行四候の活句よのゝゝゝゝゝゝ

いひけりハ

いひつぎけりなり

はふろつハ

つ。川はふろつ

いらけハ

いらつ。なり

あふろハ

あふろなり

なびろハ

なびろ。なり

あ。詞と字鏡ふろ。とあふろなり

○佐行四岐の活句の波行四岐の活句のふろ。なり

う。ふ。ね。あ。ふ。ろ。ハ

う。ふ。ね。あ。ふ。ろ。なり

う。ふ。へ。ハ

う。ふ。へ。なり

う。ふ。ハ

う。ふ。なり

か
し。
ちよ

けゝゝゝと押つてやゝやゝ

新之助。中世。中世。

まづことゆゑなり

空方此人有り。又此有。空方此人有り。又此有。

○多行四候の活句の波行四候の活句よりなるものなり

425.

右 昭詞はあゆふは是のこゝて外なるあふは

○波行四候の活句の口活句ふのゝをてゝゝゝを

あゝい。なまそく人ハ
あゝい。ちとよそ人ち

うゝ。び。ふ。ハ

み。ひ。ま。ぎ。ら。び。ハ

ふ。ね。ふ。ら。び。ハ

ふ。そ。び。て。ハ

○麻行四候の佐河の波行四候ふのそとてふそと

す。ち。ふ。ら。び。ハ

は。く。ら。び。ハ

や。ち。ふ。ら。び。ハ

ふ。そ。び。ハ

ふ。ち。ふ。ら。び。ハ

うゝ。ふ。ち。り

み。ひ。ま。ぎ。ら。ち。り

ふ。ね。ふ。ら。ち。り

ふ。そ。び。て。ち。り

す。ち。ふ。ら。ち。り

は。く。ら。ち。り

や。ち。ふ。ち。り

ふ。そ。ち。り

ふ。ち。ふ。ち。り

うらぬはまうむい

うらぬはまうむい

このへに

おのれに

うらぬはまうむい

うらぬはまうむい

かきくづりたまふ

うらぬはまうむい

うらぬはまうむい

うらぬはまうむい

うらぬはまうむい

うらぬはまうむい

うらぬはまうむい

うらぬはまうむい

うらぬはまうむい

うらぬはまうむい

みるきうびつ

みるきうつち

みるきうぶつ

みるきうのち

○多行中二股の活句の波行四股の活句よのうらうら

みるきうびつ

みるきうのち

みるきうのうらうら

○波行下二股の活句の波行よのうらうら

みるきうのうらうら

みるきうのち

みるきうのうらうら又加行佐行麻行羅行の四股のうらうら

のうらうらみるきうのうらうらみるきうのうらうら

みるきうのうらうらみるきうのうらうらみるきうのうらうら

れと帝よつゝつり是亦と身二れまの身写のまふつりたるあまなり

○羅行下二股の活句の波行下二股の活句よのつゝつりたるま

なつゝつりたるま

なつゝつりたるま

なつゝつりたるま

なつゝつりたるま

なつゝつりたるま

なつゝつりたるま

又つゝつりたるま

またつゝつりたるま

またつゝつりたるま

またつゝつりたるま

またつゝつりたるま

たうりなう。かハ

たうりなう。

みつさなう。てハ

みつさなう。てちり

○波行四岐の法細の羅行四岐の法細よのうううう

うううう。

うううう。

あきうう。

あきうう。

又うううう。あきうう。うううう。うううう。うううう。

口——波行四岐の法細の羅行四岐の法細よのうううう

うううう。うううう。うううう。うううう。うううう。

のううう。うううう。うううう。うううう。

○麻行四岐の法細の羅行四岐の法細よのうううう

いともあやうく又活ぬきなるも多し一羅行なるもあやうき
 ちかとうく佐行波行ふ延くくもいさうことなるゆゑもふんえ
 しく終るのかと多うく一皆あやうきなるも多し一
 又右く四行の活詞の才三れきくも多しふむるの才三れきくも
 たむおらうくも多しとれきくも多しとありき

○加行の活詞よてハ

ひのきくも多し

ひのきくも多し

ゆのきくも多し

ゆのきくも多し

つとけくも多し

つとけくも多し

○佐行の活詞よてハ

おまへーやん。ちやう

聖子めくちや

あつちをいふ。なり

い。とさくなく

ふ。一よりもちり

きけはまわぶる。

めみまふる

わさきふなみ

又四段の底細よりあつてぬ。む。のてふをこれを行の身一れき
な。よ。ら。ま。く。と。の。こ。う。い。ふ。あ。つ。そ。き

○奈行のぬ。のてふをこれを行の身一れき

あひ思ふ。な。く。ま

あひ思ふ。ぬ。ふ。ち。う

あつた。ふ。な。く。ま

あつた。ぬ。ち。う

あつた。な。く。ふ

あつた。ぬ。ち。う

あつた。な。く。ふ

あつた。ぬ。ち。う

あつた。な。く。ふ

あつた。ぬ。ち。う

○麻行のむ。のてふをこれを行の身一れき

いふ。く。ふ。な。く。ま

いふ。く。ふ。ぬ。ち。う

た。ち。と。き。ハ

な。づ。ち。と。き。ハ

あ。ち。と。き。ハ

お。ち。と。き。ハ

う。ち。と。き。ハ

ひ。ち。と。き。ハ

し。む。の。と。き。ハ

ち。な。と。き。ハ

あ。む。ハ。後。ち。ハ

お。ち。と。き。ハ

う。ち。と。き。ハ

ひ。ち。と。き。ハ

○羅行の。れて。を。け。の。け。う。と。き。ハ

お。ち。と。き。ハ

お。ち。と。き。ハ

あ。ち。と。き。ハ

あ。ち。と。き。ハ

さ。ぬ。ら。く。い。ま。の。と。き。ハ

ふくくふくふくハ

中々せうくハ

五

人の志れら。ハ

あけく。

七

217

いづれに

ふみけぬ。

ふふふのふくなくるり

中々々々々。

中々

人のきねちち

あけくる

そとけり。

三十一 三十一

さくら。ちり

夜のみけぬるなり

又く志き志く志
志きと志く志のく
のけくとのそらう
うさあう

又くまきまをきこふ所のいふの

いふと いふけ。ちと。なみ。う。を。ふけ。
あ。を。あけ。ふ。を。ふけ。を。ふけ。を。
ふけ。な。を。

又ふれちのうけ。ふあきね。そ。と。ふ。の。あけ。な
とあ。ち。きの。ふ。を。ふ。

右今集カレよりおいと。と。ふ。あ。よ。の。あ。な
う。う。と。あ。ふ。信言の。ふ。ふ。あ。集。老。洛。惜。毛
とあ。ふ。あ。う。と。ふ。と。ふ。と。あ。と。と。と。と。と。
ふ。や。あ。ふ。ふ。と。ふ。と。老。の。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

又梓らうれぬ迄のまげう。ふきとあゝま まげきとソ
うらるれとよま奉う。四段の活句の候ふたううれそ
けり。ハ候ふあゝうれ

又ねるうらうけ。あゝふ書記ふひーうれさうけ。あ
らふちあゝあゝうらうち事紀うれとさー邪流とあ
そくけ。もくけ。のさうあゝー

又たひうけ。のうけ。やまうけ。なとてまゝくまきの
活の。うそまなれとけ。とつううらうれぬくおゝうれ
序よりうらうら。まゝけ。ハあゝ。とてうらうら。まゝくまきの
はゝうらうら

ほいゆうゝゝゝの例

○加行の法は、てくあのりてうとてくことゝと多し。一、てくを
てく志きの法は、てく志きの法は、のくとてくゝあゝとてく
のゝゝゝゝゝゝゝ

まのゝゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝ
人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
人のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
なゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
秋のゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

むー。う。や。う。う。け。む
な。も。う。名。取。て。い。く。う。う。り。り
る。う。う。洞。の。い。も。な。う。う。む
そ。う。な。う。う。あ。う。う。や。う。う
あ。う。う。う。う。き。お。う。う。月。を
あ。う。う。秋。の。ひ。う。う。う。う
な。う。う。う。う。う。う。う。う。う
は。う。う。う。う。う。う。う。う。う
ひ。う。う。う。う。あ。う。う。う。う。う
そ。う。う。う。う。う。う。う。う。う
あ。う。う。う。う。う。う。う。う。う
う。う。う。う。う。う。う。う。う

又市きくとうふ烟　さきさつ。　さきさつ。れなまつ　ゆうて　さきさの
 浜のさきさつれとさきさつ。　さきさつ。　ふはるゝみ　さきさつ　このれ
 なりあふ

○うゑち中

いのちそけむい

いぬちううむるり

ふふのふけ。むい

こゝろをうつゝ

ふねなけ。

ふねふねふねふね

あけむい

三ノ子

くろく。

○ ○ ○ ○ ○

ふまゝにやまひむハ

スミヤキヤシロ

是亦ち古事なりて後學のいふやうにこそ又とまへけりやと

いゝとあはれをさういふやといふてあなうさかなぞつ

ら志志事とハ活子れ之吳市ウケ候事又あふ之に

又これらけきにもこれな。なうにまてふなうと甲乙

うまゝといふ

とてふいともあり

ふやれぶち

又このあぐげ。いもぐ。後。い。き。あ。の。あ。う。て。け。い。も。う。き。う。
さ。う。り。あ。げ。う。と。あ。う。う。い。き。あ。う。と。あ。う。う。き。う。け。せ。う。あ。
の。と。あ。う。う。き。う。あ。う。あ。の。れ。あ。う。う。き。う。き。う。い。け。い。そ。
え。も。依。行。よ。の。う。う。う。う。う。う。

○佐行の活そぞ。あのゆるてぞ。とつとことあふいとあふ
こちねのこのむ。ふあ。とつとねのそつりしとあふ

ちとて事なうとぞ。なむ

又ぞ。あのつらうてざとく事ある意ざうけおふ

おうけ。な。う。く。さ。ふ。踏。ふ。よ。け。と。い。ひ。て。か。よ。さ。う。い。ひ。な
る。と。い。ふ。な。う。

又。さ。ー。あ。げ。を。さ。ら。げ。り。ー。あ。げ。を。め。さ。げ。と。い。ふ。も。あ。り
又。約。を。く。も。せ。て。あ。ら。う。約。を。さ。ら。ー。ら。せ。て。ち。り。又。ー。せ。あ。う。せ。な
と。の。う。せ。も。さ。ら。ー。の。は。さ。り。た。も。ち。り

○多行の活。う。ち。あ。の。約。う。て。と。と。い。ふ。あ。り

な。う。ー。さ。ら。の。氣。な。れ。と

母。の。ー。み。ー。さ。ら。の。う。て。と。と。い。ふ。

さ。ら。ー。み。の。う。て。と。と。い。ふ。

又。さ。ら。あ。げ。を。さ。ら。げ。り。ー。あ。げ。を。め。さ。げ。と。い。ふ。も。あ。り

○
三
十

うきうきとさくら。とこ
あねち。こふ。ち。わ。れ。ぬ。

あねちよふちね

あねぢこふぢぢれ

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian, arranged in several lines within a rectangular frame. The script is fluid and connected, with some characters appearing to be ligatures. The text is written on aged, slightly discolored paper.

○奈行より。あ。の。つ。も。う。て。な。ん。と。も。う。た。ふ。い。と。あ。ち。
 是。も。ふ。の。て。ふ。と。ふ。あ。ち。い。い。こ。も。の。そ。う。い。ふ。も。う。
 秋。さ。て。あ。ち。い。い。か。い。は。
 う。い。ふ。の。き。み。ち。い。い。
 ね。も。い。い。の。あ。ち。い。い。ふ。
 な。い。い。と。う。ち。い。い。ち。い。い。
 ふ。ち。ち。せ。ふ。ち。い。い。ち。い。い。
 い。い。ち。い。い。ち。い。い。ち。い。い。
 ち。い。い。ち。い。い。ち。い。い。ち。い。い。
 あ。ち。い。い。ち。い。い。ち。い。い。ち。い。い。

あやういふれ秋のむすしと
あやういふれ秋のむすしと
あやういふれ秋のむすしと

又新嘗とよひな。くとりやさういふ。あゝわづらなうきだのうこふ
ひりな。そびよとあゝる暇め。あゝいまでもなうたれな。おもこれ
の。あゝあらう又さす。こころさうとりやまこのうここれ。ういなり又江次
才小結葉とつく縄とあゝを和名抄示加久能阿和はる候字
れらもの。あゝあらういもあらういなり

○波行
うゑのこま。くをのこま。人々もいふ。な

う。や。れ。む。ハ

う。や。れ。む。ハ

○多行うてを

月とちとて。ち。む。ハ

ち。と。ち。ハ

ち。と。ち。ハ

ち。と。ち。ハ

○波行うてを

人。の。つ。と。ち。む。ハ

つ。と。ち。ハ

う。や。れ。む。ハ

う。や。れ。む。ハ

月とちとて。ち。む。ハ

ち。と。ち。ハ

ち。と。ち。ハ

ち。と。ち。ハ

人。の。つ。と。ち。む。ハ

つ。と。ち。ハ

つゝゝゝハ

つゝゝゝれどハ

○麻行うてそ

もれうらあらむハ

うらあ。らハ

うらあ。らハ

うらあ。れどハ

○四維行うてそ

るのうら。らむハ

うら。らハ

つゝゝゝあ。らむ

つゝゝゝあ。れどむ

もれうら。らむら

うら。あ。らむ

うら。あ。らむ

うら。あ。れどむ

あ。れ。あ。らむ

うら。あ。らむ

ふれ。ふ。

ふ。あ。ちり

ふれ。どハ

ふ。あれどちり

右も四候の活相まゝさういれと阿奈也和の四行はな
ちよ舉ぐ延昭の詞も行多しとふ路しとさかき
なういふちりちりちりちりちりちりちりちりちり





3

8

657